CMK

2022
環境データ集

日本シイエムケイ株式会社

CONTENTS

1　2021年度の活動結果・・・・・・・・P.2
2　気候変動への対応・・・・・・・・・・P.4　(P.14・15)
3　廃棄物削減・資源有効活用・・・P.8　(P.16)
4　環境負荷物質管理・・・・・・・・・・P.11 (P.17)
5　生物多様性保全・・・・・・・・・・・・P.12 (P.17)
6　環境汚染防止・・・・・・・・・・・・・・・P.12 (P.17)

・(　)内の数値は「2022 CMK Report」に記載の頁を示す

【 2022 CMK Report 】

環境データ集とは

「2022 CMK Report」(https://www.cmk-corp.com/csr/report/)に掲載されている環境情報(事例・数値情報)に関連した、より詳細なデータを集めた冊子となります。

報告対象範囲

日本シイエムケイ㈱　およびその関係会社

＜国　内＞

【 日本シイエムケイ株式会社 】
本　社
SEセンター
Gステイション工場
新潟工場
蒲原工場
秩父工場
営業所(名古屋、大阪、広島)

【 国内関係会社 】
シイエムケイ・プロダクツ株式会社

＜海　外＞

【 生産拠点 】
旗利得電子(東莞)有限公司
希門凱電子(無錫)有限公司
CMK CORPORATION(THAILAND) CO.,LTD.

【 営業拠点 】
CMK ASIA(PTE.)LTD.
新昇電子(香港)有限公司
新昇電子貿易(深圳)有限公司
CMK EUROPE N.V.
CMK AMERICA CORPORATION

・その他拠点情報:営業及び管理事務拠点一つであった「SEセンター」(三芳町)は、2022年7月に「川越オフィス」(川越市)へ移転

報告対象期間

2022 年度　　2021年4月1日　～　2022年3月31日

環境データ集に関するお問い合わせ先

日本シイエムケイ株式会社
サステナビリティ推進部 環境推進課
〒372-0824　群馬県伊勢崎市柴町236
E-mail:kankyou@cmk.co.jp

本文中のグループ会社　社名略称表記等

シイエムケイ・プロダクツ㈱　・・・・・・・・・・・・・・・・・　CMKプロダクツ
希門凱電子(無錫)有限公司　・・・・・・・・・・・・・・・・・　CMK無錫
旗利得電子(東莞)有限公司　・・・・・・・・・・・・・・・・・　旗利得電子
CMK CORPORATION(THAILAND) CO.,LTD. ・・・・　CMKタイ

1．2021年度の活動結果

「環境方針」に基づき、「中長期環境行動計画」を策定し、環境保全活動を推進しています。
この行動計画を遂行するために、単年度の取り組み目標を定め活動しています。

【評価記号の説明　○：目標を達成　△：目標を一部未達成　×：未達成】

取り組み課題		目 標	主な取り組み	結 果	評価
1	気候変動の緩和	【エネルギー使用量】 原単位1％以上削減 （前年度比）	・省エネルギー活動の全社的な推進 ・品質改善活動による不良低減 ・生産性向上の推進 ・工場内照明、非常常備灯、 街路灯（水銀灯）のLED化を推進 ・省エネ効果を考慮した設備導入 ・老朽化設備の計画的更新及び効果確認 ・R-22冷媒使用機器の入替の推進	【達成】 ・CMK無錫 ・CMKタイ 【未達成】 ・日本シイエムケイ㈱ ・旗利得電子 ・CMKプロダクツ	△
2	環境汚染防止	【環境汚染事故】 0件	・環境事故ゼロを目指し、設備の点検、修繕、 更新を計画的に実施 ・標準書類の整備、作業主任者の配置 整備、役割の明確化を実施	【達成】 ・環境汚染事故：0件	○
3	廃棄物削減 資源有効活用	【ゼロエミッション活動の推進】 国内：100％ 海外：100％	・廃棄物削減のため、分別回収を徹底	【達成】 ・国内：100％ 【未達成】 ・海外：99．4％	△
4	環境負荷物質（EHS） 管理	【EHS不具合によるクレーム】 0件	・EHS不適合製品が顧客に納入されることの 無いよう、EHS管理活動を推進 ・EHSに関する顧客要請に対して納期順守	【達成】 ・EHS不具合による クレーム：0件	○
5	生物多様性保全	【工場取組率】 100％	・地域に密着した生物多様性保全活動の実施 ・外来種の駆除、在来種の保護 ・サケの遡上場所周辺の草刈り	【達成】 ・工場取組率：100％	○
6	コンプライアンス	【順守評価重大違反】 0件	・順守義務を明確にし、順守評価を実施	【達成】 ・順守評価重大違反：0件	○

・EHS　：Environmental Hazardous Substances

事業活動と環境との関わり合い

事業活動に必要な資源およびエネルギーの使用、それに伴い排出される温室効果ガスや廃棄物の排出量を適正に把握することにより、実効性のある環境活動につなげています。

2021年度のマテリアルバランス

INPUT

エネルギー

電気	:	113 千MWh
A重油	:	29 kℓ
都市ガス	:	5,536 千㎥
灯油	:	74 kℓ

水資源

上水	:	695 千㎥
工業用水	:	4,480 千㎥

化学物質

PRTR対象物質 : 1,342 t

原材料

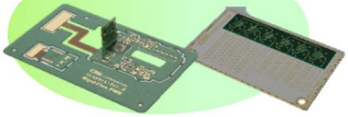
事業活動

【事業内容】
プリント配線板の製造

【対象期間】
2021年度

【対象範囲】
国内グループ

製 品



OUTPUT

大気系

CO_2	:	63.7 千t-CO_2
フロン漏洩量	:	83.8 t-CO_2
PRTR対象物質排出量	:	0 t

水域系

PRTR対象物質排出量 : 1.5 t

廃棄物

再資源化量	:	5,819 t
最終処分量	:	0 t

環境会計

当社は、1999年度より環境省発行の「環境会計ガイドライン」に基づいて環境会計を運用し、環境保全活動を評価する指標の一つとして、環境保全活動に関わる費用を明確にし効率的な環境経営を推進して行きます。

2021年度　環境保全コスト

【単位：百万円】

環境保全コスト項目		環境保全コスト		
		設備費	維持管理費	計
1）事業エリア内コスト		32.0	496.8	528.9
	①公害防止コスト	24.3	325.9	350.1
	②地球環境保全コスト	4.4	3.0	7.4
	③資源循環コスト	3.3	168.0	171.3
2）上・下流コスト		0.0	0.2	0.2
3）管理活動コスト		0.0	107.2	107.2
4）研究開発コスト		0.2	0.1	0.4
5）社会活動コスト		0.0	0.0	0.0
6）環境損傷コスト		0.0	0.0	0.0
7）その他の環境保全コスト		0.0	0.0	0.0
合 計		32.3	604.4	636.7

・集計条件（期間）：2021年4月～2022年3月　範囲：国内グループ

【単位：百万円】

2021年度年度　金額効果	
省エネ施策による実質効果	2.8
有価物の売却益	1,008.0

【単位：削減率（%）】

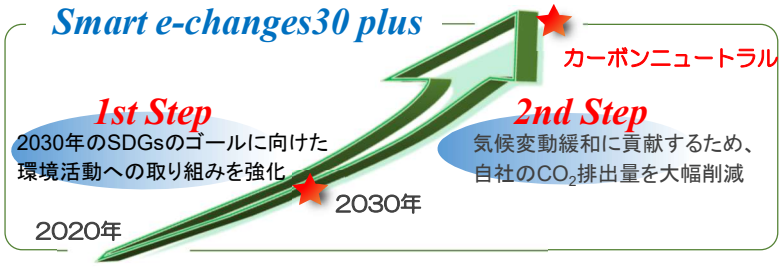
2021年度年度　物量効果	
CO2排出量（前年度比）	5.6%削減

2. 気候変動への対応

当社は、環境保全活動を経営の重要課題の一つと認識し、その基本姿勢を明確にするために、「中長期環境行動計画」を策定しました。地球との共生を果たしながら、持続可能な社会の実現に向けて従業員一丸となり環境保全活動を推進して行きます。

中長期環境行動計画

2016年に中期目標としてCO2排出量を「2030年度までに2013年度比21%削減」を掲げ活動してきましたが、2020年には、2030年のSDGsのゴールに寄与するために、CO2排出量削減活動のみでなく、5つの環境課題への取り組みとして中長期環境行動計画 ”Smart e-changes30” を策定し、内外へ公表し推進してきました。日本政府の脱炭素政策として2050年のカーボンニュートラルや2030年までの46%削減目標（2013年度比）が公表されたことなどを受け、2022年に気候変動の緩和に関わる目標の見直しを行い、カーボンニュートラルに向けてCO2排出量を「2030年度までに2013年度比46%削減」することを掲げ、
”Smart e—changes30 plus” として、リスタートしました。



タスクフォースへの賛同

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

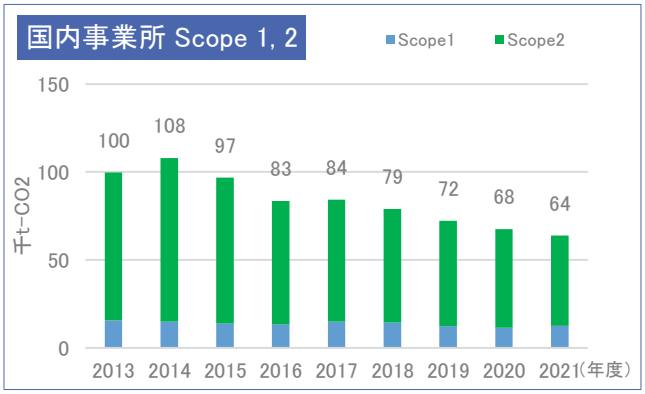
当社は、「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）」に賛同するとともに、気候変動の緩和に向けた取り組みを推進しています。

指標と目標

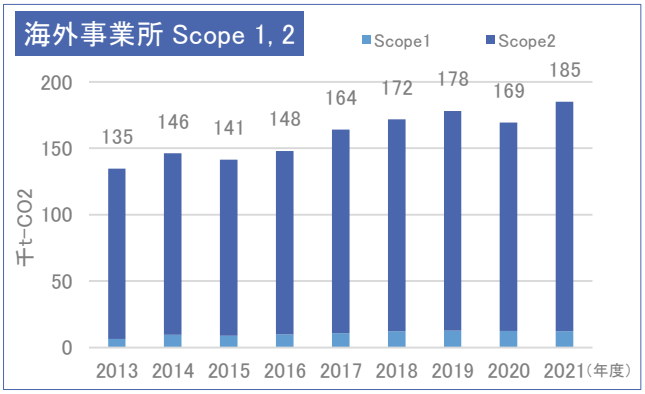
指　標	目　標	
①CO2排出量（Scope1，2）	CO2排出量削減中期目標　：国内	・46%削減　（2030年、2013年度比）
②エネルギー使用量	エネルギー削減目標　　：CMKグループ	・1%エネルギー原単位削減（前年度比）

Scope 1，2

2021年度の当社グループ国内事業所のCO2排出量は、63.7千t-CO2でした。昨年度に比べ5.6%減少し、2013年度に比べ、約36%削減されました。 一方、2021年度の当社グループ海外事業所のCO2排出量は、185.0千t-CO2でした。海外事業所は当社の成長戦略のもと、2013年度に比べ約37%増加しました。



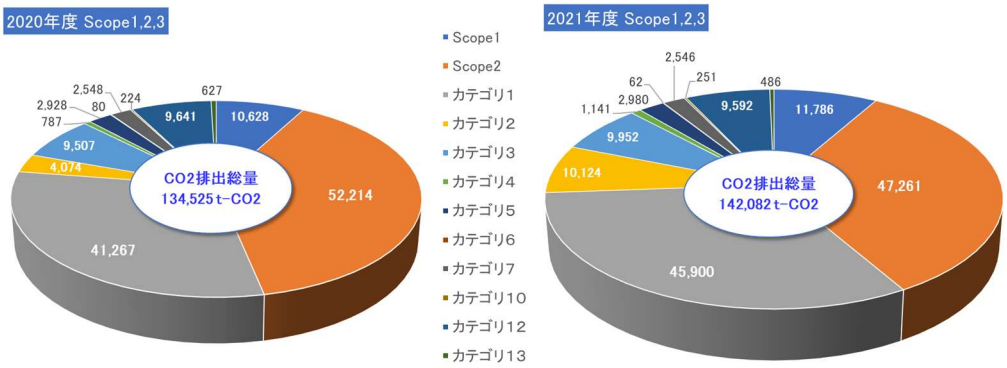
・国内事業所には、関係会社のシイエムケイ・プロダクツ㈱を含む



・海外多量排出事業所：CMK無錫、旗利得電子、CMKタイ）

サプライチェーン排出量（Scope 3）

当社は、カーボンニュートラルに向けた脱炭素化を推進するには個々の企業の努力を超えて、サプライチェーン全体での取り組みが必要と考えています。そのための第一歩として、サプライチェーン排出量（Scope 3）の算定に着手しました。



・算定の範囲はCMK単体の値

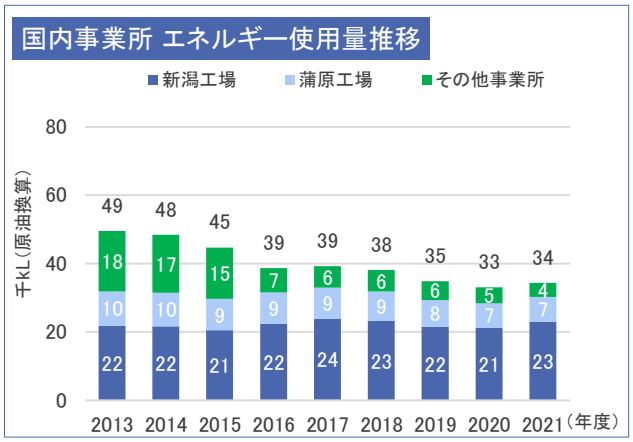
【CO2排出量：t-CO2】

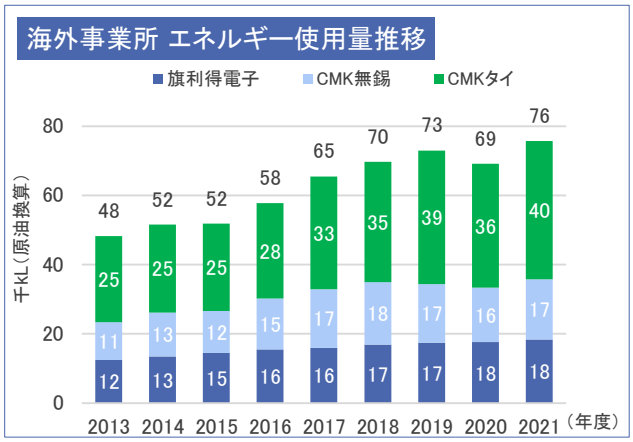
区分	Scope3 カテゴリ		算定対象	算定方法	2020年度	2021年度
上流	1	購入した製品・サービス	・原材料・部品、仕入商品・販売に係る資材等が製造されるまでの活動に伴う排出	・排出原単位 ⇒DB 3.2（購入数量ベース）	41,267	45,900
	2	資本財	・自社の資本財の建設・製造に伴う排出	・排出原単位 ⇒DB 3.2（取得金額ベース）	4,074	10,124
	3	Scope1,2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	①他者から調達している燃料の調達に伴う排出 ②他者から調達している電気の発電等に必要な燃料の調達に伴う排出	・排出原単位 ⇒① IDEAv2（購入数量ベース） ⇒② DB 3.2（購入電力ベース）	9,507	9,952
	4	輸送、配送（上流）	① 報告対象年度に購入した製品・サービスのサプライヤーから自社への物流（輸送、荷役、保管）に伴う排出	＜適用除外＞ ・算定困難 ・影響度が小さい	—	—
			② 報告対象年度に購入した①以外の物流サービス（輸送、荷役、保管）に伴う排出（自社が費用負担している物流に伴う排出）	・排出原単位 ⇒DB 3.2（金額ベース）	787	1,141
	5	事業から出る廃棄物	・自社で発生した廃棄物の、輸送、処理に伴う排出	・排出原単位 ⇒DB 3.2（重量ベース） ⇒IDEAv2（重量ベース）	2,928	2,980
	6	出　張	・交通費（航空機、船舶、鉄道、バス、タクシー、自家用車） ・宿泊費（費用又は宿泊数）	・排出原単位 ⇒DB 3.2（金額ベース）	80	62
	7	雇用者の通勤	・交通費（鉄道、バス、自家用車）通勤手当から算出	・排出原単位 ⇒DB 3.2（金額ベース） ⇒IDEAv2（人・kmベース）	2,548	2,546
	8	リース資産（上流）	・自社が賃借しているリース資産の操業に伴う排出（Scope1,2 で算定する場合を除く）	＜適用除外＞賃貸しているリース資産についてはScope1.2で算定	—	—
下流	9	輸送、配送（下流）	・自社が販売した製品の最終消費者までの物流（輸送、荷役、保管、販売）に伴う排出（自社が費用負担していないものに限る）	＜適用除外＞ ・当社製品は中間製品（部品）であり、最終消費者への製品の販売なし ・算定困難	—	—
	10	販売した製品の加工	・事業者による中間製品の加工に伴う排出（排出物のうちの有価物）	・排出原単位 ⇒DB 3.2（重量ベース） ⇒IDEAv2（重量ベース）	224	251
	11	販売した製品の使用	・使用者（消費者・事業者）による製品の使用に伴う排出	＜適用除外＞ 当社製品は機能上エネルギー消費が極端に小さいため算定しない	—	—
	12	販売した製品の廃棄	・使用者（消費者・事業者）による製品の廃棄時の処理に伴う排出	・排出原単位 ⇒IDEAv2（重量ベース） 廃棄時の中間処理サービス （分解・解体～破砕・選別） 焼却処理サービス	9,641	9,592
	13	リース資産（下流）	・賃貸しているリース資産の運用に伴う排出	・賃貸先へのScope1,2の聞き取り調査	627	486
	14	フランチャイズ	・フランチャイズ加盟者における排出	＜適用除外＞該当する活動なし	—	—
	15	投　資	・投資の運用に関連する排出	＜適用除外＞該当する活動なし	—	—

・DB 3.2：サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.2）
・IDEAv2：IDEA(Inventory Database for Environmental Analysis) データベース Excel版（サプライチェーン温室効果ガス排出量算定用）
・ 購入製品・サービスの算定では、一定期間の主要原材料のデータをもとに推定値を用いて算定いたしました

エネルギー使用量

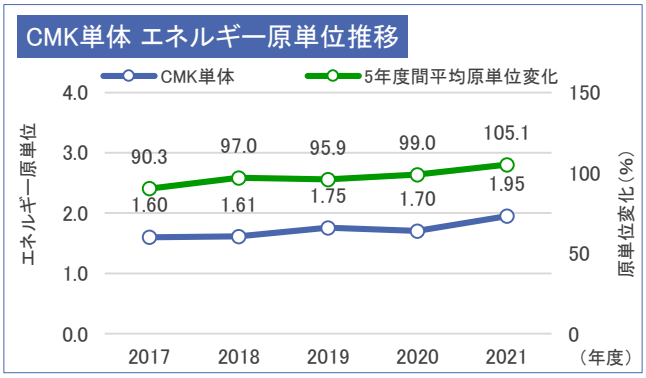
CMKグループではエネルギー使用量の監視および削減に取り組んでいます。

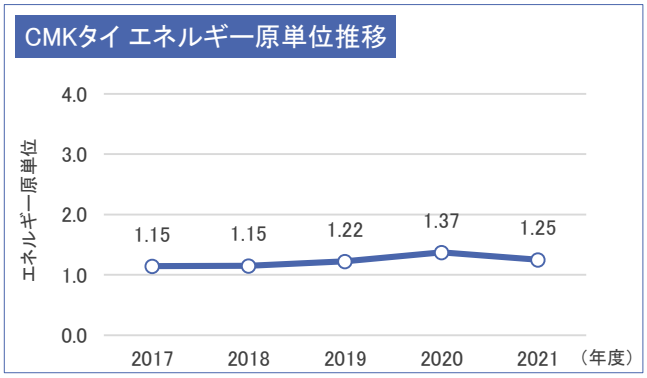


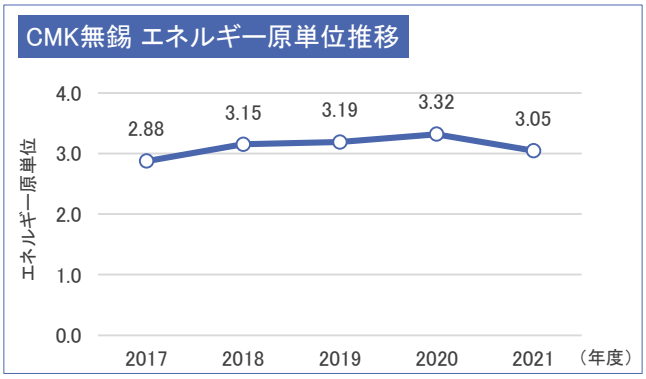


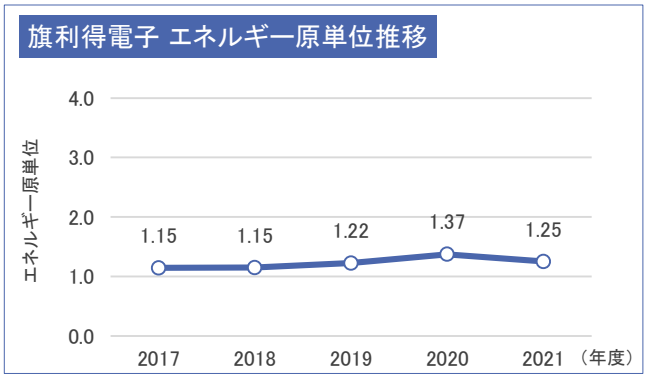
エネルギー原単位推移

CMKグループでは、エネルギー使用量削減、CO2排出量削減の指標の一つとしてエネルギー原単位を監視しています。また、国内事業所については、省エネルギー法の指標の一つである5年度間平均原単位推移を算定しています。









・海外事業所については、過去のデータに不足があるため、5年度間平均原単位推移の記載は除く

取り組み

CMKグループでは、CO2排出量削減のために、まず第一にエネルギー削減活動に取り組んでいます。
日頃の省エネ活動はもとより、照明のLED化、老朽化設備を省エネタイプ化へ更新など積極的に推進しております。
2021年度は、電気使用量で約4,000千kWh、CO2換算で2,192t-CO2の削減見込みとなりました。

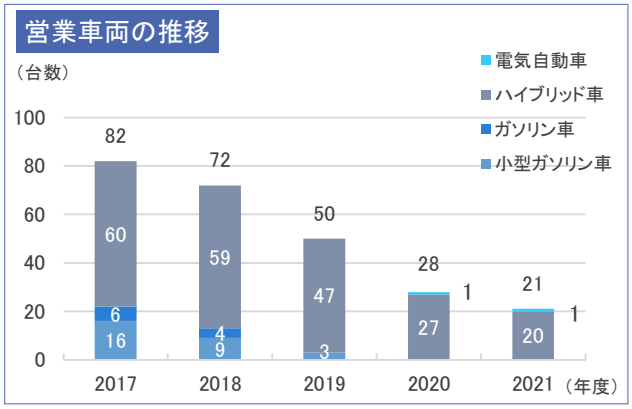
フロンへの対応

フロン漏洩を防止するため、「フロン排出量抑制法」に基づいた簡易点検と専門機関による定期点検を実施しています。また、R-22冷媒などのオゾン破壊性のある特定フロン「HCFC」（ハイドロクロロフルオロカーボン）の全廃に向けて、代替フロン冷媒への切り替えを進めています。

・【フロン排出抑制法のフロン類漏えい量の届出】 企業単位で1,000t-CO2 /年以上の漏えいがあった場合には、国への報告が必要

営業車両の環境配慮

営業車両のCO2排出量削減への取り組みとして、内燃機関（ICE）のみを動力とする自動車から、ハイブリッド車（HV）や電気自動車（EV）を導入・使用することで従業員の環境に対する意識向上をはかっています。
同時に、適正台数を割り出し、必要な台数分のみ所有することで不要なCO2排出を防止しています。
その結果、2021年度の当社の営業車両保有台数は、ハイブリッド車20台、電気自動車1台となっています。



夏季の省エネの取り組み

空調によるエネルギー需要が増大する夏季に、国の指針に基づき製品品質に影響しない事務所では、空調を28℃に設定するよう取り組んでいます。
また、クール・ビズの期間を従来より前倒し及び延長して夏季の軽装化に努めています。
このような身近にできる活動を通じて、社員の意識高揚につなげています。

エネルギー削減活動の取り組み

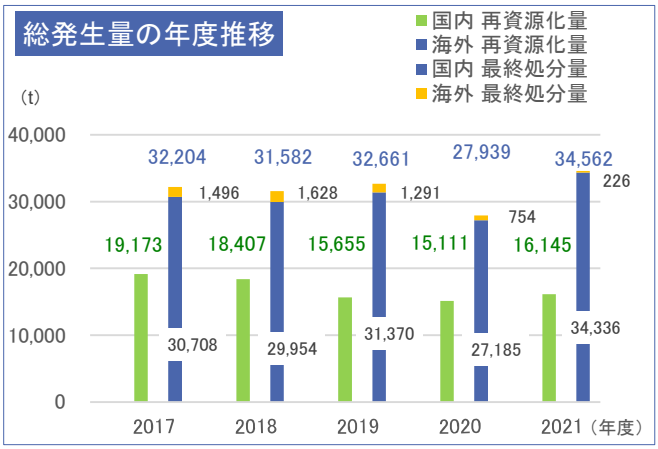
社内での啓発のためのポスター掲示や環境コーナーを設置し、従業員への周知や意識向上を積極的に行っています。

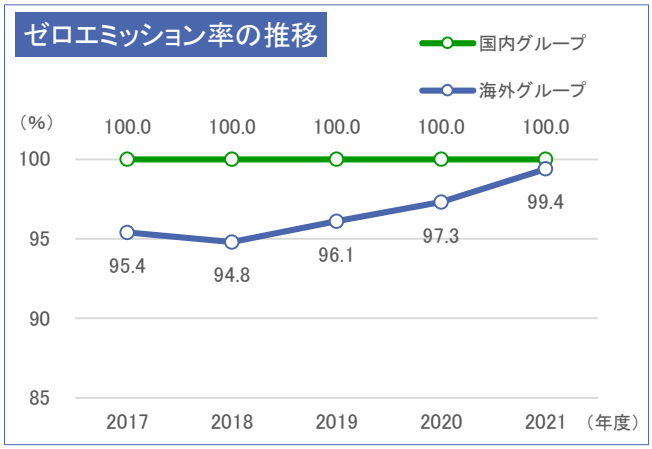
3. 廃棄物削減・資源有効利用

CMKグループでは、ゼロエミッションを「直接埋立て処分する廃棄物の量をゼロにすることと定義し、その達成を目指して取り組んでいます。

ゼロエミッションへの取り組み

2021年度の国内グループの廃棄物・有価物の総発生量は16,145tで、ゼロエミッション率は100%を維持できました。
海外グループの廃棄物・有価物の総発生量は34,562tで、ゼロエミッション率は99.4%（前年度比2.1ポイント改善）となりました。
なお、海外グループにおいては工場の進出している国・地域性も影響していますが、ゼロエミッション達成に向けた活動を積極的に推進しており、旗利得電子及び、CMK無錫ではゼロエミッションを達成しています。





- 再資源化量：再資源化される廃棄物と有価物の量
- 最終処分量：埋立て処分される廃棄物の量
- 総発生量：最終処分量 + 再資源化量

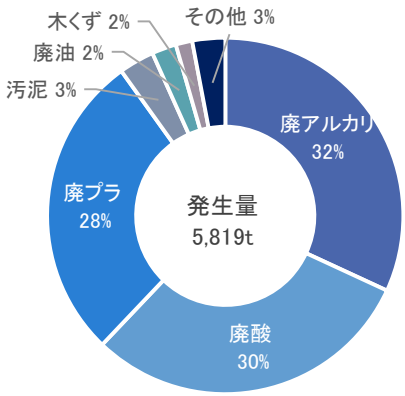
当社のゼロエミッションの定義

・直接埋立て処分する廃棄物の量をゼロにすること
・ゼロエミッション率100%が定常的に維持できた時点で達成とする
※業者委託による中間処理残渣の埋立処分量は含まない

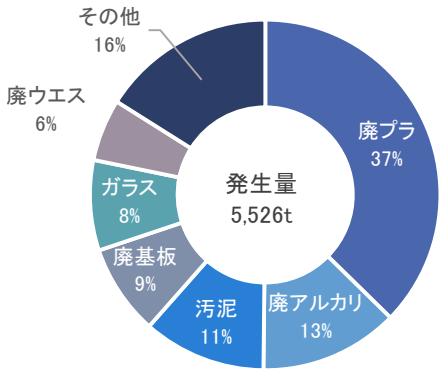
廃棄物発生量

CMKグループは、国内事業所においては「廃棄物処理法」に基づき、適正に分別回収、中間処理を実施しております。
海外事業所においても、所在国地域の規制やルールにに則った管理と処理を行っています。

国内グループの廃棄物発生量の内訳



海外グループの廃棄物発生量の内訳

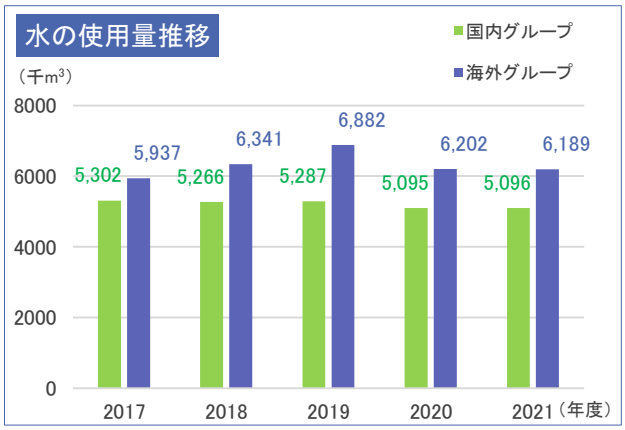


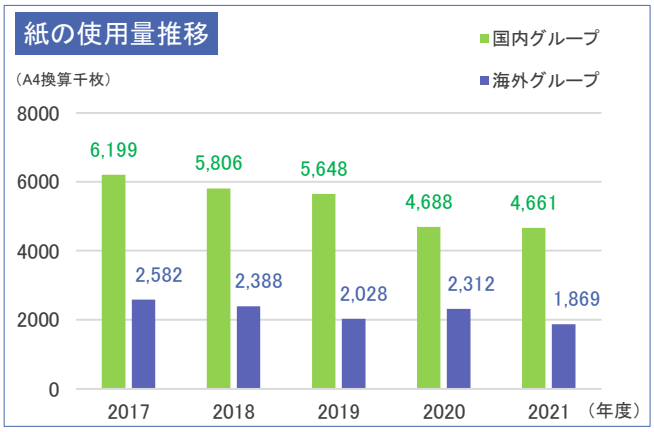
省資源活動

CMKグループでは、限りある資源を有効利用し、資源の無駄を無くす取り組みを推進することが廃棄物削減にもつながると考え、省資源活動に積極的に取り組んでいます。

水資源と紙資源

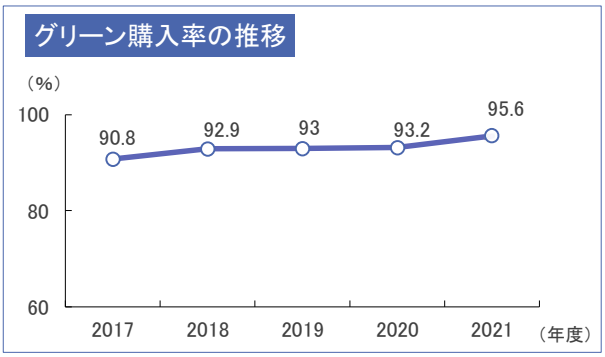
水資源の有効利用、使用量削減への取り組みとして、水リサイクル装置の導入や、生産設備に節水機能を搭載するなど積極的に推進しています。
海外工場では水資源リスク対策として、リサイクル活動を実施しています。
2021年度のリサイクル量は、CMKタイ305千㎥、CMK無錫384千㎥、旗利得電子184千㎥となりました。





グリーン購入活動

当社では、環境に配慮した事務用品などの購入について「グリーン購入」と位置づけ、環境に配慮された事務用品の購入を推進しています。
また、「グリーン購入ガイドライン」を策定し、これに基づき購入実績の把握を行っています。
2021年度のグリーン購入率は95.6%でした。



グリーン購入の判断基準

① エコマークなどの公的な環境ラベル認定
② カタログなどで環境配慮品として掲載されているもの
③ ①、②以外で当社として例外的に認めるもの

グリーン購入の対象品目

●紙類　●印刷物　●オフィス家具　●自動車
●文具　●パソコン・OA機器　●その他オフィス用品

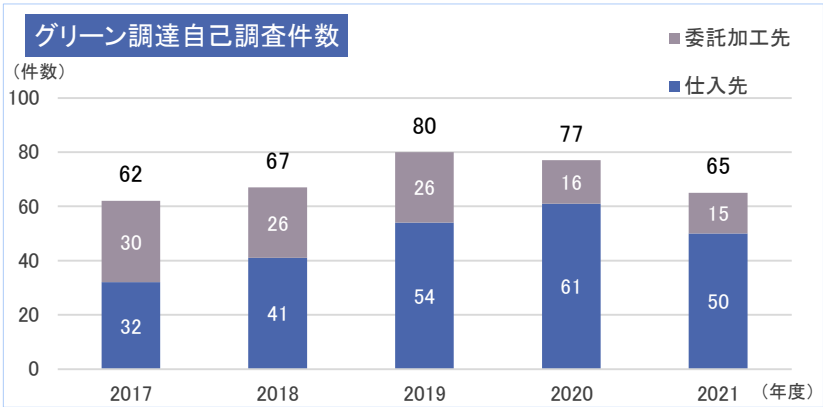
・グリーン購入率　：　文具及び紙類の総購入金額のうち、エコマーク付き商品などのグリーン購入品の購入金額が占める割合（%）

4. 環境負荷物質管理

CMKグループでは、国内外の法規制、顧客要求、業界基準等に基づき、地球環境や人体に影響を及ぼす化学物質を「EHS（Environmental Hazardous Substances）」と定義し管理をしています。

グリーン調達活動

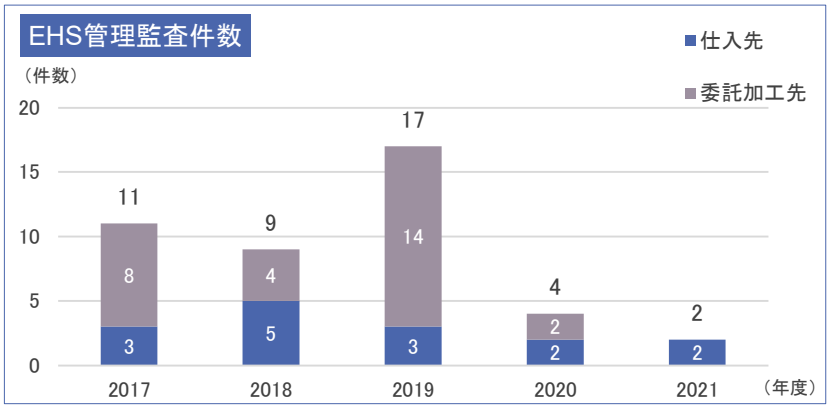
お取引先に対して年に一度、自己診断ツールを使いグリーン調達調査を実施しています。



【 グリーン調達基準書 】

EHS管理認定制度

グリーン調達調査の結果を基にEHS管理監査を実施しています。
監査の結果、総合評価得点が高いお取引先については『CMKグリーンパートナー』として認定しています。



【 環境適合認定書 】

顧客要請の対応状況

お客様より寄せられる環境関連の調査に対応しています。
2021年度に環境担当窓口に寄せられたお問い合わせは1,045件となりました。

【単位：件数】

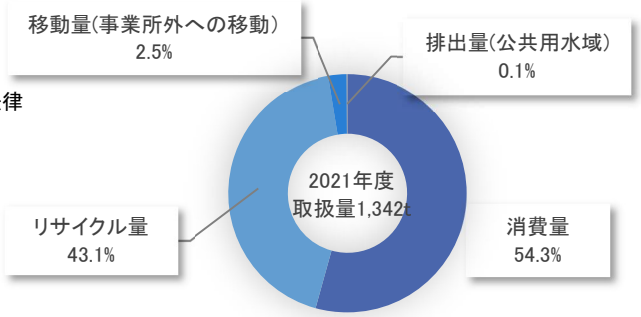
お問い合わせ件数の推移					
項　目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
環境負荷物質の使用及び含有	769	815	936	1,052	866
ISO14001取得	22	17	13	34	17
グリーン調達	136	138	162	106	129
CSRアンケート	14	19	15	19	19
その他	32	24	16	8	14
合　計	973	1,013	1,142	1,219	1,045

PRTR制度への対応

当社では1998年からPRTR制度による排出・移動量を
把握し、データを開示しています。

・PRTR（Pollutant Release and Transfer Register ）
特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律

PRTR対象物質の排出・移動量



2021年度 PRTR制度 対象物質別データ

2021年度は、7物質の移動・排出量について報告しました。

【単位：t】

政令番号	物質名	取扱量	排出量			移動量		リサイクル量	消費量
			大気	公共用水域	土壌	下水道	事業所外への移動		
20	2－アミノエタノール	10.49	0.00	0.00	0.00	0.00	1.20	0.00	9.29
71	塩化第二鉄	626.35	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	242.11	384.23
272	銅水溶性塩（錯塩を除く）	488.13	0.00	0.76	0.00	0.06	24.20	316.68	146.42
395	ペルオキソ二硫酸の水溶性塩	182.96	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	138.63
405	ほう素化合物	2.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	1.94
411	ホルムアルデヒド	27.75	0.00	0.69	0.00	0.03	2.95	0.00	24.07
412	マンガン及びその化合物	4.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.00	0.00	0.00
	合 計	1341.67	0.00	1.51	0.00	0.09	32.35	558.79	704.59

2021年度 PRTR制度 工場別データ

【単位：t】

拠 点	政令番号	物質名	取扱量	排出量			移動量		リサイクル量	消費量
				大気	公共用水域	土壌	下水道	事業所外への移動		
Gステイション工場	71	塩化第二鉄	6.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.27
新潟工場	20	2－アミノエタノール	8.99	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.99
	71	塩化第二鉄	185.54	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	27.83	157.70
	272	銅水溶性塩（錯塩を除く）	13.81	0.00	0.26	0.00	0.00	3.02	6.22	4.33
	395	ペルオキソ二硫酸の水溶性塩	85.26	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	40.93
	405	ほう素化合物	2.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	1.94
	411	ホルムアルデヒド	17.32	0.00	0.69	0.00	0.00	0.00	0.00	16.62
	412	マンガン及びその化合物	4.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.00	0.00	0.00
蒲原工場	20	2－アミノエタノール	1.50	0.00	0.00	0.00	0.00	1.20	0.00	0.30
	71	塩化第二鉄	78.90	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	78.90
	272	銅水溶性塩（錯塩を除く）	442.70	0.00	0.50	0.00	0.00	18.60	296.00	127.60
	395	ペルオキソ二硫酸の水溶性塩	97.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	97.70
	411	ホルムアルデヒド	7.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	6.90
CMKプロダクツ	71	塩化第二鉄	355.64	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	214.28	141.36
	272	銅水溶性塩（錯塩を除く）	31.61	0.00	0.00	0.00	0.06	2.59	14.47	14.50
	411	ホルムアルデヒド	3.34	0.00	0.00	0.00	0.03	2.75	0.00	0.55

・秩父工場は届出対象外
・端数処理の関係で合計が一致しない場合あり
・新潟工場の395 ペルオキソ二硫酸の水溶性塩廃液は排水処理場にて処理の為、組成消費量以外は「0」となる

生活環境を保全する条例への対応

【単位：t】

Gステイション工場	
特定指定物質	取扱量
鉄及びその化合物	6,271

Gステイション工場では、群馬県の生活環境を保全する条例により、
「特定指定物質」取扱量の届出を行っています。
2021年度は、1物質の取扱量を報告しました。

・群馬県特定指定物質： 事故等により公共用水域に多量に排出されることにより、 人の健康又は生活環境に影響があり、利水障害等の原因となる化学物質として、条例施行規則で定める11物質

5. 生物多様性保全

地域に根ざした生物多様性保全活動として、各事業所周辺、地域の行政・ボランティア団体などと連携した活動に取り組んでいます。
2021年度は、新潟地区において、サケの卵から孵化させた稚魚を育て、サケの遡上する能代川へ放流しました。
また群馬地区では外来生物の駆除や在来生物の保護などに取り組みました。

新潟地区 ：卵から育てたサケの稚魚の放流

群馬地区 ：外来生物の駆除や在来生物の保護

6. 環境汚染防止

CMKグループでは、環境汚染事故の予防活動として環境リスクアセスメントを取り入れています。
また、環境マネジメントシステムのもと、法令等の制改定情報を定常的に監視することにより最新の遵守事項を明確化した上で事業活動を実施しています。
同時に、遵守状況を定期的に確認し、万一不備などがあれば改善・是正し、法令遵守を第一と考え活動しています。

環境マネジメントシステム

CMKグループではISO14001の認証を取得しています。

認証取得一覧

会社名	事業所名(認証範囲)	規 格	登録日	認証初回取得日
日本シイエムケイ	新潟工場	ISO14001:2015	2005/12/22	1999/08/25
	蒲原工場			2002/12/13
	本社広域(*)			2017/12/22
	秩父工場	ISO14001:2015	2004/09/10	2004/09/10
CMKプロダクツ	本社工場、第一工場、二工場	ISO14001:2015	1999/12/01	1999/12/01
旗利得電子	工場	ISO14001:2015	2021/01/18	2003/12/30
CMK無錫	工場	ISO14001:2015	2004/11/11	2004/11/11
CMKタイ	工場	ISO14001:2015	2008/01/25	2008/01/25

・ 本社広域 ：本社・SEセンター・Gステイション工場・名古屋営業所・大阪営業所・広島営業所

7．事業拠点の環境負荷データ

事業所名	エネルギー関連			廃棄物関連		資源関連	
	CO_2 排出量	電気エネルギー使用量	熱エネルギー使用量	ゼロエミッション率	総発生量	水使用量	紙使用量
	t-CO_2	千kWh	原油換算kl	%	t	千m3	千枚(A4換算)
新潟工場	42,486	71,694	5,030	100%	6,858	4,176	2,386
蒲原工場	13,382	25,852	811	100%	2,590	562	733
Gステイション工場	2,339	5,100	30	100%	252	247	415
秩父工場	199	441	1	100%	31	0.5	86
CMKプロダクツ	4,674	9,077	298	100%	3,792	190	1,041
CMKタイ	78,490	145,508	2,513	98.7%	17,831	4,860	485
旗利得電子	54,605	62,690	2,195	100%	8,699	881	657
CMK無錫	51,625	59,495	2,146	100%	8,032	449	728

事業所名	水質測定実績						
	pH	BOD	COD	SS	n-ヘキサン（鉱油類）	n-ヘキサン（動植物油類）	大腸菌群数
	–	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	個/cm^3
新潟工場	7.4 （5.8～8.6）	19 （30）	16 （30）	11 （30）	<1 （5）	<1 （5）	<20 （3,000）
蒲原工場	7.2 （6～8.3）	21 （45）	18 （50）	4 （10）	＜2 （3）	＜2 （25）	240 （1,500）
Gステイション工場	8.0 （6～8.4）	2.0 （20）	2.3 （35）	3.0 （30）	1 （4）		100 （1,000）
秩父工場	非該当						
CMKプロダクツ	8.1 （6.0～8.4）	38 （≦＜250）	–	3 （≦250）	–	–	–
CMKタイ	7.6 （5.5～9.0）	27 （≦500）	90 （≦750）	65 （≦200）	–	＜3 （≦10）	–
旗利得電子	7.9 （6～9）	–	44 （50）	12 （30）	0.67 （2）	21.4 （100）	–
CMK無錫	8.4 （6～9）	–	30 （50）	8 （30）	–	–	–

・水質測定値は最大値を記載 ／ （ ）内の数値は自主基準値

事業所名	大気測定実績					
	特定施設名称			特定施設名称		
	NOx	SOx	煤塵	NOx	SOx	煤塵
新潟工場	蒸気ボイラー・冷温水発生機			–		
	39volppm （60）	–	–	–		
蒲原工場	吸収式冷水発生機R-1-2			吸収式冷水発生機R-1-3		
	24cm³/m³ （40）	＜0.0055Nm³/h （15.92）	＜0.0059g/Nm³ （0.03）	26cm³/m³ （40）	＜0.0041Nm³/h （15.92）	＜0.0055g/Nm³ （0.03）
Gステイション工場	ボイラー			スクラバー		
	58ppm （180）	0.02m³N/h （4.22）	0.005g/m³N （0.3）	塩化水素 2mg/Nm³（60）	–	–
秩父工場	非該当					
CMKプロダクツ	非該当					
CMKタイ	ボイラー			–		
	1.8ppm （200）	–	32.1mg/m3 （320）	–		
旗利得電子	蒸気ボイラー(B－16)			ボイラー(B-17)		
	74mg/m³ （150）	9mg/m³ （50）	16mg/m³ （20）	102mg/m³ （150）	7mg/m³ （50）	13.1mg/m³ （20）
CMK無錫	ボイラー1			–		
	42mg/m3 （150）	15mg/m3 （50）	2.1mg/m3 （20）	–		

・大気測定値は最大値を記載 ／ （ ）内の数値は自主基準値